

岐阜県生活技術研究所は
快適な生活空間の創出と地域産業振興のために
新材料・新製品の研究と技術支援を行っています

- テレワークに適した姿勢について
- 依頼試験手数料・開放試験室使用料の減免について
- 研究会活動等への協力
- 来所困難時の相談対応について

テレワークに適した姿勢について | 家庭用椅子や机の支出増加に関連して

新型コロナウイルスの影響により個人消費が落ち込んでいますが、総務省統計局の家計調査によると、「書斎・学習机・椅子」の一世帯当たりの支出額は、前年同月比で**5月が約2.5倍増、6月が約4.7倍増**、という結果を示しました。これは人々が急いで在宅での仕事や学習環境を整えたことが影響したと予測され、改めて家庭と仕事と家具の関係について関心が高まったのではないかと思います。当所には人間工学的な観点による人の姿勢と家具設計に関する研究実績がありますので、新規開発の情報提供が可能です。以下では参考までにテレワークにおける留意点を記述しました。

●作業姿勢・休憩時間について

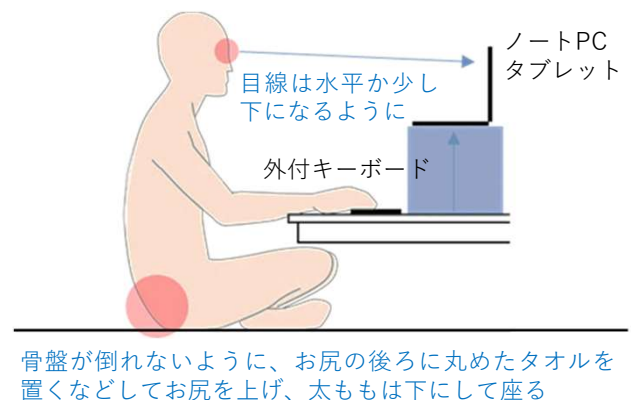
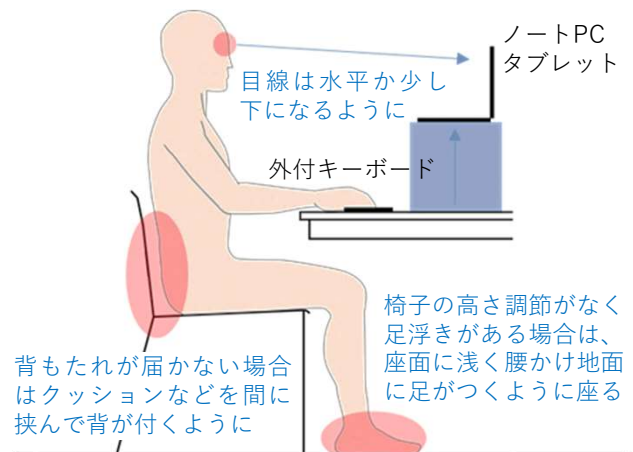
テレワークでは、PCの画面を見続けることが多くなります。同じ姿勢のままになりやすいため、20分に1回を目安に首や肩を動かしたり、立ち上がったたり、意識的に体を動かすように心がけます。その際、約6m以上先を少なくとも20秒間見るようにすると、眼精疲労の防止になります。

●ノートPCやタブレット使用時の留意点

ノートPCやタブレットなどの情報端末を使用している時は、頭部が下を向いた姿勢になりやすいため、首や肩への負担が大きくなります。この場合、外部のディスプレイモニターを使うか、それが無い場合には、本や雑誌を重ねて画面が目線の高さか少し下になるように調節して、外付キーボードやマウスを肘の高さ位に置くと体への負担を減らすことができます。

●座卓での作業環境

床に座った姿勢は骨盤が倒れやすく、座卓でのノートPCやタブレットの使用は首、肩、腰への負担が大きい姿勢になりやすいため骨盤が倒れにくくする工夫が必要です。



依頼試験手数料・開放試験室使用料の減免について

岐阜県では、新型コロナウイルス感染症により事業活動に影響を受けている県内中小企業の皆様の経済的な負担軽減のため、工業系試験研究機関〔岐阜県産業技術総合センター（ぎふ技術革新センター）、岐阜県食品科学研究所、岐阜県セラミックス研究所及び岐阜県生活技術研究所〕における依頼試験手数料、開放試験室設置機器使用料及びぎふ技術革新センター設置機器使用料を減免します。手続きについては各所ウェブサイトにおいてお知らせしておりますので、減免要件をご確認の上、申請してください。なお、依頼試験・開放試験室利用では別々に申請が必要になります。〔当所ウェブサイト <http://www.life.rd.pref.gifu.lg.jp> 〕

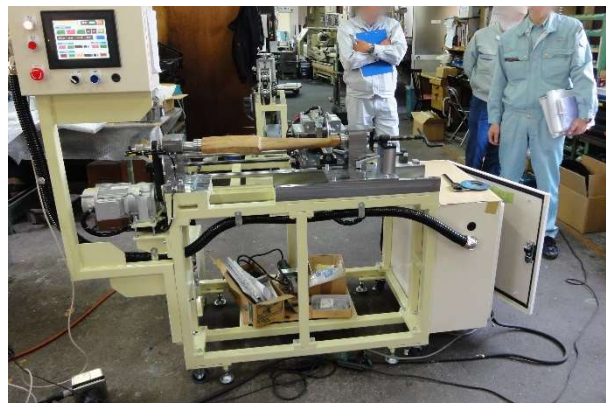
研究会活動等への協力 | 加工技術・デザイン・地域材利用等に協力しています

当所では業界団体等からの依頼により研究会や人材育成活動に協力しています。内容は様々で中には長年にわたり開催されているものがあります。研究会活動においては、当所技術を活用し共同研究成果となる事例もあります。現在実施する中から3つの事例についてご紹介します。

●自主改善研究会（協同組合飛騨木工連合会）

協同組合飛騨木工連合会が実施する研究会活動のひとつに自主改善研究会があります。当所は長年オブザーバーとして協力しており、相談対応、技術支援を実施しています。

本会では加工技術を中心に会員企業が課題を持ち寄り、当所での意見交換、先進企業への視察、加工機開発等を行うことにより技術向上を目指しています。近年の活動成果としては当所とのスキャニングコッピングマシンの共同開発があります。



自主改善研究会による開発風景

●小径広葉樹高付加価値化活用推進PJ（飛騨市）

飛騨市ではチップにしかならなかった多様な小径広葉樹の価値を上げる小径広葉樹高付加価値化活用推進PJを新規に進めています。当所はワーキンググループメンバーとして小径広葉樹の部材評価等に協力しています。

現状、小径広葉樹は通直部が木1本中の1割程度と非常に少なく、大部分が曲がり部であるため製品材として品質が安定していません。本PJでは、こうした曲がった部分や枝などの部分を活用するため、乾燥工程や物性評価、デザイン検討などを経て、木1本の価値を上げ、山側への利益の還元を目指します。



山から搬出された飛騨産小径広葉樹

●匠DNA展（岐阜県木工デザイン協会）

岐阜県木工デザイン協会では、毎年の飛騨の家具フェスティバルにおいて、会員企業社員の人材育成を目的とした匠DNA展（作品展）を開催しています。当所は長年この企画・準備全般、審査・講評会を実施しています。

作品は各企業の熟練者等で審査し、優秀作の表彰と講評会を行います。毎回50作ほどが集まり、期間中は一般客や社員関係者で賑わいます。1964年に木工デザイン展として始まり、以後名称を変えつつ50回以上開催しています。各社員の意欲のもと、長期間継続していることは、産地の技術力を物語っています。



匠DNA展における作品講評会

来所困難時の相談対応について | 電話・メール・web会議など



新型コロナウイルス感染防止に伴い、依頼試験、機器利用、技術相談の対応に変更が生じる場合がございます。来所困難な状況が想定されますので、技術相談は電話やメールを中心に利用させていただいております。物を見ながらの相談が必要であればweb会議で対応可能な場合もございますので、状況に応じてご相談ください。